

図書館の生い立ち 目次
短期大学の隆盛を支えて…p1
第二の故郷 横浜へ…p2
21世紀を歩む…p3
次世代へのエール…p4

図書館の生い立ち

短期大学の隆盛を支えて

学院創立 140 周年の今年、現在の大学図書館は竣工から四半世紀になります。

大学図書館の始まりは短期大学の草創期まで遡ります。

短期大学は 1950 (昭和 25) 年、長野県上田にあった保姆傳習所の伝統を引き継いだ保育科が、寄宿舎の青楓寮にて開学しました。

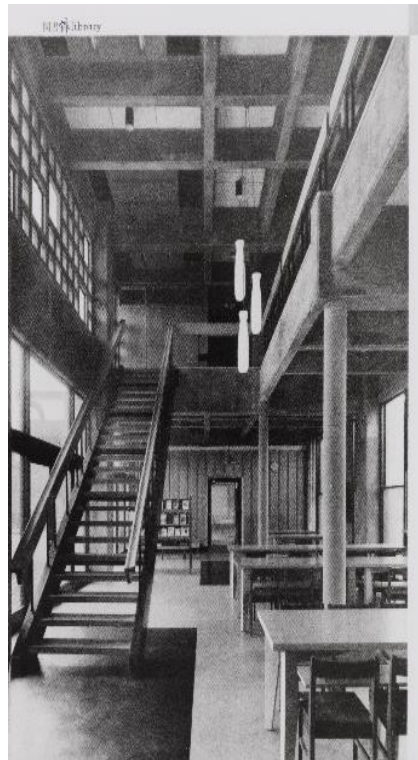
開学の 4 年後、六本木校地の中に建てられた木造校舎に短期大学が移り、その一室に設けられた図書閲覧室が大学図書館につながる歩みの始まりです。その時から数えて学院の歴史のちょうど半分の 70 年になります。

1959 (昭和 34) 年、鉄筋コンクリートの新校舎が完成し 1 階と 2 階に図書館が設けられ、「東洋英和女学院短期大学図書館」の名称になりました。

さらに、1968 (昭和 43) 年に校舎の増築によって、図書館のエリアが広がり蔵書数も増加しました。戦後の高度経済成長の時流と女子の高等教育発展の波に乗る、本学の短期大学の隆盛を支えました。



木造校舎 (1954~1959)



鉄筋校舎内の図書館の風景
(1959~1968)



鉄筋校舎 (1959~1986)



木造校舎の図書室
(1955 年頃)



鉄筋校舎の閲覧室で勉学に励む

第二の故郷、横浜へ

1986（昭和 61）年、学院創立 100 周年記念事業の一環として短期大学は“第二の故郷”横浜へ移転しました。

3 年後の 1989（平成元）年に大学が開学。図書館は「東洋英和女学院大学・短期大学図書館」に改称されました。大学開学に合わせて増築部が建てられ、図書館のスペースが広がりました。現在は教職・実習センターが設置されています。

1995（平成 7）年に短期大学が大学へ編入され大学短期大学部となり、図書館の名称は「東洋英和女学院大学図書館」になりました。

1997 年に大学教員の研究用として利用されていた大学図書室（現・3106 教室）の資料を収蔵しました。この図書館は 1999 年 7 月 28 日が最後の開館日になりました。

現在は学生が集う“カルテットホール”として利用されています。



大雪が降った後、
六本木から荷物が到着



スロープの突き当たりが図書館の入り口



引っ越し後の荷解き作業
本を書架へ並べる



現・紀伊國屋書店ブックセンター
のエリアにあった閲覧席



開放的な吹き抜けとキャレル席が特徴

21 世紀を歩む

1999（平成 11）年 7 月、大学開学 10 周年記念事業として現在の大学図書館が竣工しました。1999 年 10 月 12 日の開館日から数えて今年で 25 周年になります。

中門の警備室や 6 号館の辺りなどいくつかの候補地の中から、現在の場所が選ばれました。当時は林地で横の通路を人が通ると、ウサギやタヌキが茂みの中へ逃げていくという光景を時折見かけました。

基本設計・意匠・統括管理を請け負ったのは、大学図書館の建築実績が豊富な鬼頭梓建築設計事務所です。

開館間もなく 20 世紀の終わりからミレニアムを経て 21 世紀に入り、新しい世紀を歩んできました。

「利用しやすい図書館」「学生へのサポートが充実している図書館」として、良い評価を受けております。

レンガ造りの趣のある図書館は、東京駅にも、みなとみらいの赤レンガ倉庫にも決して引けを取りません。

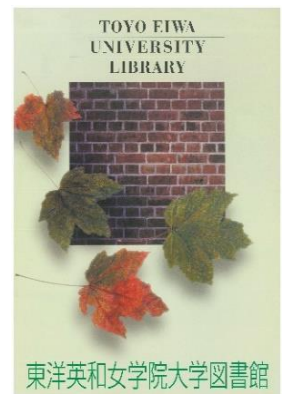
さながら「三びきの子ぶた」の末っ子が造って兄たちを助けたレンガの家のように、どんな“オオカミ”（地震、台風、雷雨）にも揺らぐことなく、学生の皆さんの学習やキャンパス・ライフ、先生方の研究活動を見守っています。



建設中



三保の森、霧が丘に建つレンガの図書館



開館記念のパムフレット



エントランスに掲げられている
ヨハネによる福音書 8 章 32 節の聖句
「真理はあなたたちを自由にする」
建設準備中の折に教員の発案により
国立国会図書館に倣いました
国立国会図書館の閲覧席の壁面は
和文とギリシャ語で表記されていますが
当館は英文で記されています



エントランスの置時計
開館間もなく、学生から
卒業記念品として寄贈され
ました



なんじゃもんじゃ越しに見える図書館
今は木々に囲まれています

次世代へのエール



入館ゲートの横に佇む、工芸作品“かわせみ”。

短期大学開学時に着任され図書館を発展させた故芝原翠先生より、ご退職の際に寄付を賜り、制作されました。

(制作は柏木裕志氏)。

二羽のかわせみが留まる台座はずっしりと重く、図書館をしっかりと支えて(?)います。

かわせみは「図書館だより」のタイトル・マークになっています。



大学初代学長・故朝倉孝吉教授揮毫の書。開館時に寄贈されました。

地下1階ラーニングルームに掲げられています。出典は『論議』「為政第二」。

「学んでも考えなければ、[ものごと]ははっきりしない。考えても学ばなければ、[独断におちいつて]危険である。」

(「論語」岩波文庫より 金谷治訳注)

先輩からのメッセージ

図書館（資料）の引越し

図書館の書架でまれに大変古い保育関係、楽譜、キリスト教、英文学洋書などを見つけたことはありませんか。それらは短期大学につながる上田保姆傳習所…保育専攻部、そして短期大学時代に使用されていた当時の教育をたどることができる貴重な史料です。

六本木校地内、六本木から横浜、横浜校地内と筆者の経験だけでも4回の引越しを経て引き継がれてきたこの紙媒体が醸す歴史をたまに感じてはいかがでしょうか。

(もっとも現図書館は適切な書架管理によって利用者への図書配架が心がけられているので分散されているため、遭遇するのは難しいかもしれません。)

(元・大学図書館事務長 梶田)

【参考資料】

- 「東洋英和女学院七十年誌」 「東洋英和女学院百年史」 「目で見る東洋英和女学院の110年」
- 「東洋英和女学院大学20年の歩み」 「短期大学の歩み」 「東光」
- 「東洋英和女学院保育者養成のあゆみ」
- 「東洋英和女学院短期大学案内」 「東洋英和女学院大学案内」
- 「建築文化」14巻8号(1959.8)

☒ 法人事務局史料室より、画像の提供と資料調査のご協力をいただきました。



図書館キャラクター「しおりちゃん」

(編集担当: 大学院図書室 横田)